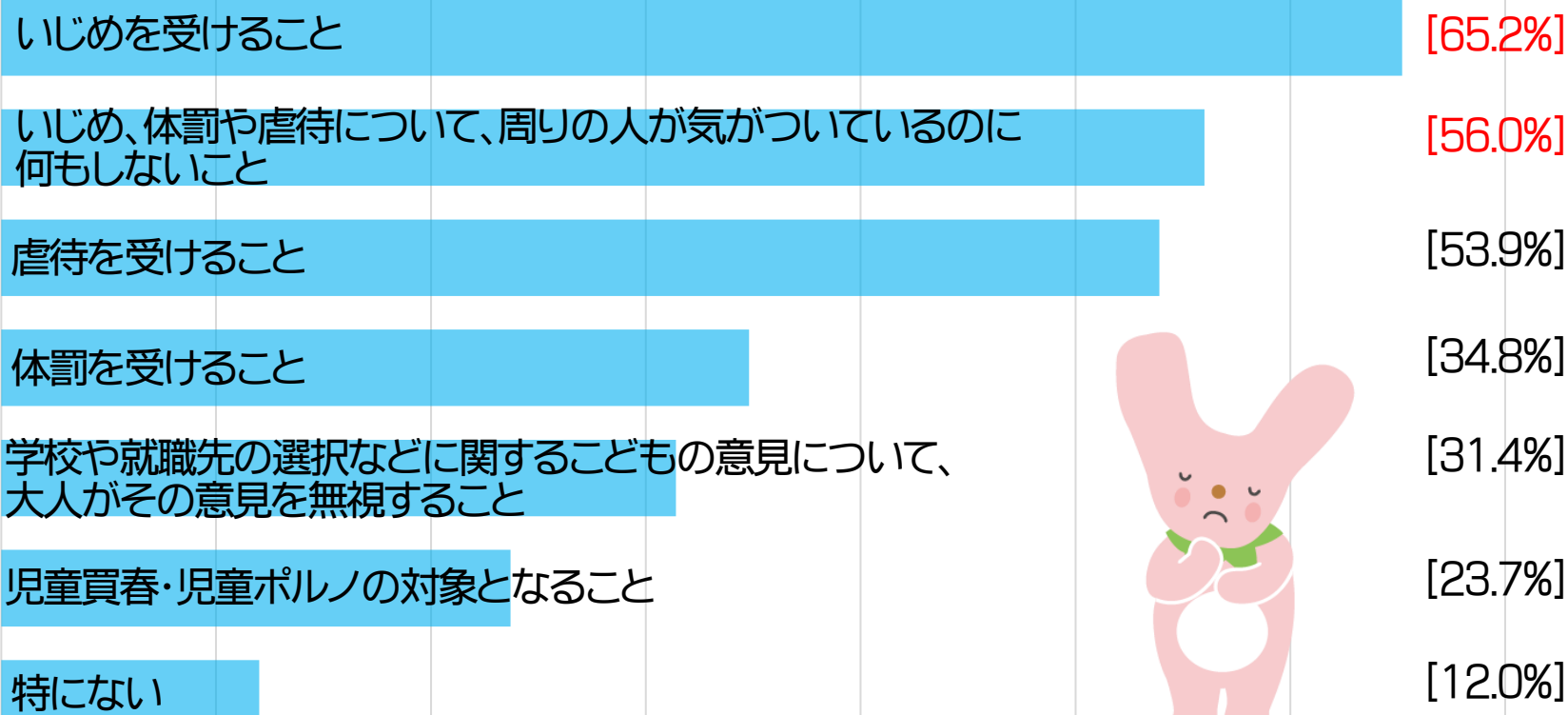


あなたが、こどもに関し、体験したことや、身の回りで見聞きしたことで、人権問題だと思ったことはどのようなことですか。(複数回答)



あるお母さんの手紙

私の息子は、中学三年生の夏休み最後の日、八月三十一日に亡くなりました。いじめを苦しめての自殺でした。私が部屋で首をつって死んでいる息子を見つけた時、息子の顔は怒ったような顔でした。母親の私に「親なら分かればよ。どうして僕の苦しみに気がつかないのか!」って。そうやって責められているように感じました。

息子の通夜、葬儀、全て自宅で行いました。一分一秒でも長く、最後の最後まで家にいてほしかったからです。いよいよ自宅を離れて火葬場に向かう時、息子を棺の中に納められず、私は車の中で夫と一緒に抱きしめていました。

その間、思い返していたことは、息子が生まれて、産院から自宅へ帰る時のことです。私が腕の中に抱き、息子はスヤスヤ気持ちよさそうに眠っていました。その時の息子の体はとてもやわらかくて、温かくて、その寝顔はまるで天使のように見えました。なのに、亡くなった息子の体はとても冷たくて硬くて、その顔は苦しみにゆがんでいました。

ごめんね、気づいてあげられなくて。

ごめんね、守ってあげられなくて。

何度も何度も息子にあやまりました。

いじめで苦しんでいる子供たちに伝えてください。「絶対に死なないで」って。あなたが死んでしまったら嘆き悲しむ人がいる。そのことを忘れないでください。必ずあなたを守れる人がいる。そのことを忘れないでください。

いじめをしてしまう子どもたちにも願いがあります。私はいじめでたった一つの宝物をなくしてしまいました。本当に苦しい。本当に悲しい。あなたのご両親も同じです。あなたを失ってしまったら、あなたのお父さん、お母さんは本当に悲しみます。だから、いじめほど悲しいものはありません。どうかいじめをやめてください。

(安永智美 著「言葉ひとつで子どもは変わる」より)